

# 芦ノ湖・芦ノ湖 歴史散歩 3



## 「杉並木・石畳」コース 箱根八里の道

発行者 箱根町教育委員会生涯学習課  
〒250-0311 箱根町湯本 266 TEL0460-85-7601  
H23.5.29 初版 H27.5.1 改訂  
R5.10.1 三訂

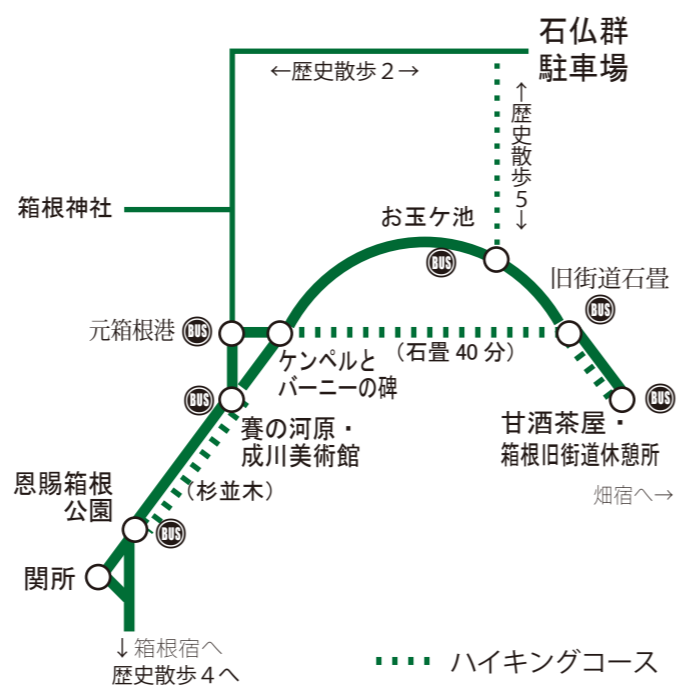
## 甘酒茶屋～賽の河原～箱根関所

このルートでは、江戸時代の箱根越えを体験してみましょう。江戸幕府を開いた家康は、早速街道の整備をはじめますが、箱根に関しては、これまでの湯坂路に代わり、須雲川沿いの谷間に新たに道を付け替えました。

甘酒茶屋から箱根旧街道入口へはハイキングコースを、そこから先は江戸時代から残る石畳に入ります。現在でもこのルートは石畳や杉並木、一里塚など、往時の街道をしのぶ遺跡が残っていて、まさに江戸時代の旅人が見た風景を思い起こさせてくれます。また賽の河原と身代わり地蔵は、当時の地蔵信仰の名残りです。

なお、恩賜箱根公園は、明治時代に造られた箱根離宮の跡地で、富士山と芦ノ湖のすば

## コースタイム（歩行時間）



らしい景色が堪能できます。ここには休憩所を兼ねた展示館があります。

恩賜箱根公園を過ぎるとすぐに箱根関所に到着です。

## 「杉並木・石畳の道」を見て、歩く



五雲亭貞秀『東海道箱根山中図』箱根町立郷土資料館蔵

## コースの見どころ

箱根旧街道石畳・杉並木、賽の河原と身代わり地蔵、箱根関所、箱根離宮跡（県立恩賜箱根公園）、箱根八里歌碑、葎原久保の一里塚跡、ケンペルとバーニーの碑、六道地蔵への石標、道中箱根馬子唄の碑、甘酒茶屋付近 親鸞上人歌碑（2基）など

## ケンペルとバーニーの碑

この碑は、芦ノ湖畔に別荘を構えていたイギリスの貿易商バーニーが、大正 11 年（1922）に、ケンペル著「日本誌」（英語版）の序文を引用し、日本の美しい国土を子孫に伝えてほしいというメッセージを込めて建てたものです。

ケンペルはドイツ人で、江戸時代に来日したオランダ商館付の医師・博物学者です。元禄 4 年（1691）と翌年、商館長に従い江戸を訪れ、帰国後「日本誌」を著し、日本を世界に広く紹介しました。

この碑は、当初箱根神社の一の鳥居横にありましたが、車の通行量の増加で危険なため、現在地に移したものです。

## 芦ノ湖畔の賽の河原

上の図は、芦ノ湖畔に行く大名行列の図です。湖畔に多くの仏像が見えるのが、賽の河原です。江戸時代になると、箱根の石仏群のある精進池周辺でなく、東海道沿いの芦ノ湖畔が賽の河原に見立てられ、多くの石仏や石塔がこの地に造られました。

ケンペルの「日本誌」には、賽の河原には 5 軒の地蔵堂があり、念仏や鉦の音が流れていたとを記しています。

## 石畳・杉並木

江戸時代初期の慶長 9 年（1604）、街道の整備に際し、一里塚をおき、街道には松を植えたという記録があります。しかし、芦ノ湖畔は杉並木となっています。この杉の樹齢調査によれば、杉が植えられたのは、慶長 9 年より 50 年ほど後のことです。おそらく、箱根の冷涼な気候で松が育たなかつたので、杉を植え直したよう

です。ですから、街道は整備されて 400 年ほど経つものの、杉並木の樹齢は 350 年ほどしかありません。

石畳は、江戸時代初期にはなく、当初は竹を敷き詰めた「竹道」でしたが、その後、延宝 8 年（1680）に、恒久的な施設として「石道（石畳）」が整備されました。